

四国運輸局におけるバリアフリーの取組

四国運輸局
交通政策部 共生社会推進課
令和7年8月8日

①バリアフリー教室・研修の開催

四国運輸局では、交通バリアフリーについての理解を深め、誰もが高齢者・障がい者等に対し、自然に快くサポートできる社会を実現するため、平成13年度から「バリアフリー教室・研修」を開催しています。

サポート方法を学ぶだけでなく、高齢者・障がい者等の困難を自らの問題として認識するきっかけとします。



【令和6年度四国運輸局バリアフリー教室開催状況】

実施日	開催場所	参加者	対象
令和6年5月16日	JR高松駅	12名	四国運輸局・独立行政法人自動車技術総合機構・四国地方整備局職員
令和6年6月24日	高松市立亀阜小学校	99名	小学生(5年生)
令和6年9月25日	高松市立花園小学校	45名	小学生(3年生)
令和6年10月30日	鳴門市林崎小学校	50名	小学生(4年生)
令和6年11月1日	西条市立楠河小学校	30名	小学生(5・6年生)
令和6年11月6日	徳島市上八万小学校	61名	小学生(3年生)
令和6年12月3日	ことでんバス株式会社	10名	乗務員
令和6年12月6日	高知空港ターミナルビル	29名	高知空港内事業者職員

☆バリアフリー教室を体験された児童の皆さんからいただいた感想（一部抜粋）☆

- この勉強で目が不自由な人や足が動かない人が、気持ちよく過ごせるには、どうしたらいいんだろうと考えようと思いました。
- 勇気がとてもいると思うけれどしょうがい者の方に声をかけ、自分ができることを行動へつなげたいです。
- この体験でふだんから考えたことのないことについてバリアフリー体験でたくさん考えて勉強できてよかったです。
- この体験を友達や家族などの周りの人に教えたいです。



②交通事業者への支援（各種補助制度の活用）

バリアフリー化を促進するため、国の各種補助制度により交通事業者を支援しています。

☆令和6年度に補助制度を活用して整備・導入された車両等

●低床式車両	2両
●ノンステップバス	30両
●福祉タクシー（リフト又はスロープ付き）	3両

③自治体への基本構想・移動等円滑化促進方針（マスタープラン）作成支援

市町村は、旅客施設の周辺地区など、高齢者、障がい者等が利用する施設が集まった地区（重点整備地区）について、特定事業を定め、基本構想の作成ができるとされていましたが、今般の法改正により、基本構想を作成するよう努めるものとされました。

また、具体事業の調整が困難な場合には、移動等円滑化促進地区を指定し、バリアフリーの方針を定めるマスタープラン制度が創設され、作成経費の支援を行うこととしています。

四国運輸局は、これまで6市（丸亀市、高松市、松山市、高知市、今治市、徳島市）の基本構想策定協議会に参画し、情報提供や助言を行ってきました。

令和6年度は、四国地方整備局とともに、基本構想・マスタープランを未策定の自治体に対して、それぞれの計画の作成についてプロモートを実施しました。

④バリアフリー四国運輸局長表彰

D（どんなときも）M（ものべがわエリアの3市が力を合わせて）O（おもてなしのところでお客様を案内する・感動をお届けする）を合言葉に地域の来訪者満足度向上とバリアフリー化推進に貢献



一般社団法人物部川DMO協議会

高知県南国市大桶甲1705-5桜ビル2階
代表理事 丸岡 克典

★取組の概要



- 特定非営利活動法人YASU海の駅クラブが主催の四国では初となる「ユニバーサルビーチ」の運営に携わり、支援学校や福祉施設への教育、団体旅行への誘致活動等に取り組んでいる。また、「ユニバーサルビーチ」以外の新たな地域の可能性を発見するために、観光庁の補助金等を活用したモニターツアーの実施により、障がい者でも楽しめる山登り体験やグランピング体験など新たな地域のポテンシャルを発見し、コンテンツ及び旅行商品の造成へと繋げている。
- 受入れ環境改善の取組として、高知県の協力のもとエリア内のバリアフリー状況の調査事業を実施し、ハード面での課題の洗い出しのみならず、障がい者及びインバウンド等を受け入れることに消極的な事業者の心のバリアを取り除くことに繋げている。

⑤バリアフリーに関する意見交換会・現地視察

【実施概要】

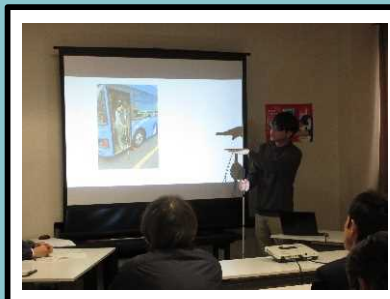
日時：令和6年12月3日（火）
場所：ことでんバス株式会社本社営業所会議室
主催：四国運輸局
参加：香川県視覚障害者福祉センター
ことでんバス株式会社

【バリアフリー研修】

様々な心身の特性や考え方を持つすべての人々が、相互に理解を深めようとコミュニケーションをとり、支え合う社会の実現に向けて、ことでんバス株式会社さんの従業員の方を対象に、視覚障がい者疑似・サポート体験や障がい当事者の方からの講義を実施しました。

【意見交換】

研修後には、香川県視覚障害者福祉センターの方やことでんバス株式会社さん等との意見交換を行いました。
香川県視覚障害者福祉センターさんよりバス、電車を利用している障がい当事者の方からの意見・要望を収集していただくとともに、ことでんバス株式会社さんにも視覚に障害をお持ちの方への対応等についての悩みごと等を従業員の方から収集していただきました。



○意見交換

【香川県視覚障害者福祉センターの方からの意見・要望】

- 白杖をもつようになってからは行き先を聞いてくれたり教えてくれることは増えたように思います。また、道路とバスの段差がないように停めてくださったり声かけしてくれ感謝しています。
- 行き先表示など見やすくしてほしい。まちなかループやレインボー循環バスのような表示だったら弱視の人は助かります。
- バスに乗車した時、盲導犬と一緒にだと、空席を探すのに他のお客様に迷惑しない様に気を使います。運転席からどこが空席か教えていただくと助かります。
- 乗降時には、安全のため介助を駅員等へ必ず依頼しています。毎回丁寧に対応していただいています。ありがとうございます。引き続き、どうかよろしくお願い致します。また、その場にいる他の乗客のかたからも声をかけていただけることでとても安心して乗っています。これについては要望ですが、駅で声かけ運動のポスターを掲示していただいています。そのような、安全な電車利用のための社会啓発の取組を今後も続けてください。ことでんには、感謝を伝えてください。
- 降車の際に歩道、縁石等の車外の状況について、呼び掛けいただけると安心して降車できる。

【従業員の方からの意見・要望】

- 白杖をお持ちの場合は気が付きやすいですが、お持ちでないお客様もいると思います。我々が気づいていない場合には、お知らせして頂けたら大変ありがたいです。
- お客様が乗車された後、座席までの誘導などが知りたいです。また、座席に座れなかった（満席など）としたら、どのような対処をすればよいですか。
- お降りの際、交通系ICカードを所持していればカードリーダーの場所を教えたり出来ますが、両替を含めて現金でお支払いする場合はどのような手伝いをしたら良いですか。
- バス案内所の窓口にチャージなど来ていただいた際は口頭でお伝えなどするのですが、イルカカードの残高が今どれ位か、残額確認は苦労されていると見受けられます。
- 混雑時などには白杖をお持ちの方に気づかないことがありますが、できる限り乗り込んでくる乗客に注意を払うように心掛けたいです。
- 後部の座席が空いている場合は案内した方がいいですか。

⑤バリアフリーに関する意見交換会・現地視察

◆ 四国分科会委員であるCIL星空さんを講師として招いたバリアフリー教室とあわせて、四国開発フェリー株式会社さんの案内のもと船内（おれんじ おおさか（2018年12月6日就航））のバリアフリー設備を見学させていただきました。



船内設備

- 日時：令和6年11月1日（金）
- 場所：東予港フェリーターミナル

- 主催：四国運輸局
- 協力：四国開発フェリー株式会社
CIL星空（四国分科会委員）

- 見学場所：おれんじおおさか船内

・デラックスシングル



・デラックスシングル（バリアフリー）



・スイート（バリアフリー）



・バリアフリー浴室



・バリアフリースイート

コントラスト比を考慮した表示



オストメイト設置

・バリアフリー設備周辺の船内移動経路



・船内エレベーター



好事例

- バリアフリールームでは、入り口の幅が約85cm以上確保されており、車いすユーザーの方がスムーズに入室できる設計となっていた。その他にも室内の手洗い器がセンサー式になっていたり、緊急呼出ボタンが低い場所に設置されるなどバリアフリー化が図られていた。
- バリアフリー浴室やバリアフリースイートの手洗い器に設置されている鏡に角度を付けることで車いすユーザーの方の利便性の向上が図られていた。
- 船内の移動経路やエレベーターの幅についても、車いすユーザーの方が利用しやすい空間が確保されていた。

⑥「障害の社会モデル」の理解促進に関するセミナー（四国地方整備局・四国運輸局共催）

日時 令和7年1月29日（水）14:00～16:00

場所 高松サポート合同庁舎南館3F 海技試験場（オンライン・対面形式開催）
内容

- ① バリアフリー法における移動等円滑化促進方針・基本構想の策定促進について
国土交通省 総合政策局 バリアフリー政策課
- ② 国土交通省における建築物バリアフリー化の取組について
四国地方整備局 建政部 都市・住宅整備課
- ③ 共生社会と多様性

一般社団法人 IINE 代表 田村 治仁 氏

出席者 四国6自治体、5団体（公共交通事業者、業界団体等）、
大阪航空局、四国地方整備局、四国運輸局職員

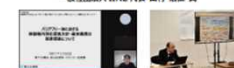
令和6年度 移動等円滑化促進方針・バリアフリー基本構想の作成支援
及び「障害の社会モデル」の理解促進に関するセミナー 開催概要

日時	令和7年1月29日(水)14:00～16:00
場所	対面・オンライン併用(Microsoft Teamsを使用) 対面：高松サポート合同庁舎南館3F 海技試験場
出席者	四国内地方公共団体、交通事業者・協会、その他行政職員等
内容	① バリアフリー法における移動等円滑化促進方針・ 基本構想の策定促進について 国土交通省 総合政策局 バリアフリー政策課 ② 国土交通省における建築物バリアフリー化の取組について 四国地方整備局 建政部 都市・住宅整備課 ③ 共生社会と多様性 一般社団法人 IINE 代表 田村 治仁 氏



一般社団法人 IINE 代表 田村 治仁 氏

第二部の「障害の社会モデル」の理解促進に関するセミナーでは、一般社団法人 IINE 代表の田村様をお招きし、「共生社会と多様性」をテーマとして、田村様の事故当時から現在までの社会のハード面、ソフト面の両面の変化について、実際に田村様が直面した場面も交えてご講演いただきました。共生社会の実現には、当事者の目線に立った疑似体験や話し合い等を通して、相互理解を深めることが大切だとお話しいただきました。



参加者の皆さんからは、普段生活している中で、気づけなかったことや、気づかなかったことを知る機会になり、参考になったとの声をいただきました。

上記セミナーでは、移動等円滑化促進方針及びバリアフリー基本構想の作成支援に関する説明のほか、一般社団法人IINEの代表を務められる田村 治仁氏のご協力のもと「障害の社会モデル」の理解促進に関するセミナーを開催いたしました。

セミナーでは、学校等での講演会・体験会を通じた障害者スポーツの普及活動をされる中で気づき感じた、田村氏の思われる「共生社会・多様性」についてお話しいただきました。

参加者いただいた方からは、「普段生活している中で、気づけないといけないことや、気づかなかったことを知る機会になり、参考になった」との声をいただきました。

今後も、障がい当事者、支援団体等のご協力のもと、「心のバリアフリー」「障害の社会モデル」の普及啓発を行ってまいります。



共生社会と多様性

令和7年1月29日(水)
一般社団法人 IINE 代表 田村 治仁

これから
必要なこと
(話し合う)

多様性を認め
共に生きる社会
「共生社会」